

あら かわ なか がわ 荒川・中川

荒川は、埼玉県秩父郡大滝村ちちぶぐんおおたきむらから発し、江東区と江戸川区の間で東京湾に注いでいます。荒川の下流部は、いまの隅田川でしたが、明治40年(1907)と同43年(1910)の東京下町の大洪水などの度重なる洪水により、治水ちすいのための放水路として明治44年(1911)に開削かいさくが決まり、20年後の昭和5年(1930)に完成しました。

総延長22 km、北区岩淵町いわぶちまちから江戸川区臨海町りんかいちょうにおよぶ人工河川(放水路)です。川幅は500mを超え、今では開削の面影はまったくなく、人工の川とは思えない程です。当時の小松川村こまつがわむら・平井村ひらいむら・船堀村ふなぼりむらの一部が川に沈み、または河川敷となりました。民家をはじめ、平井駅も移転しました。

中川は、その上流部を古利根川ことねがわともいい、江戸時代の中頃に利根川の流路を利用して開削され、江戸湾に注いでいた河川です。荒川放水路の開削が中川の本流を遮断することから、あわせて中川放水路の開削も行われました。

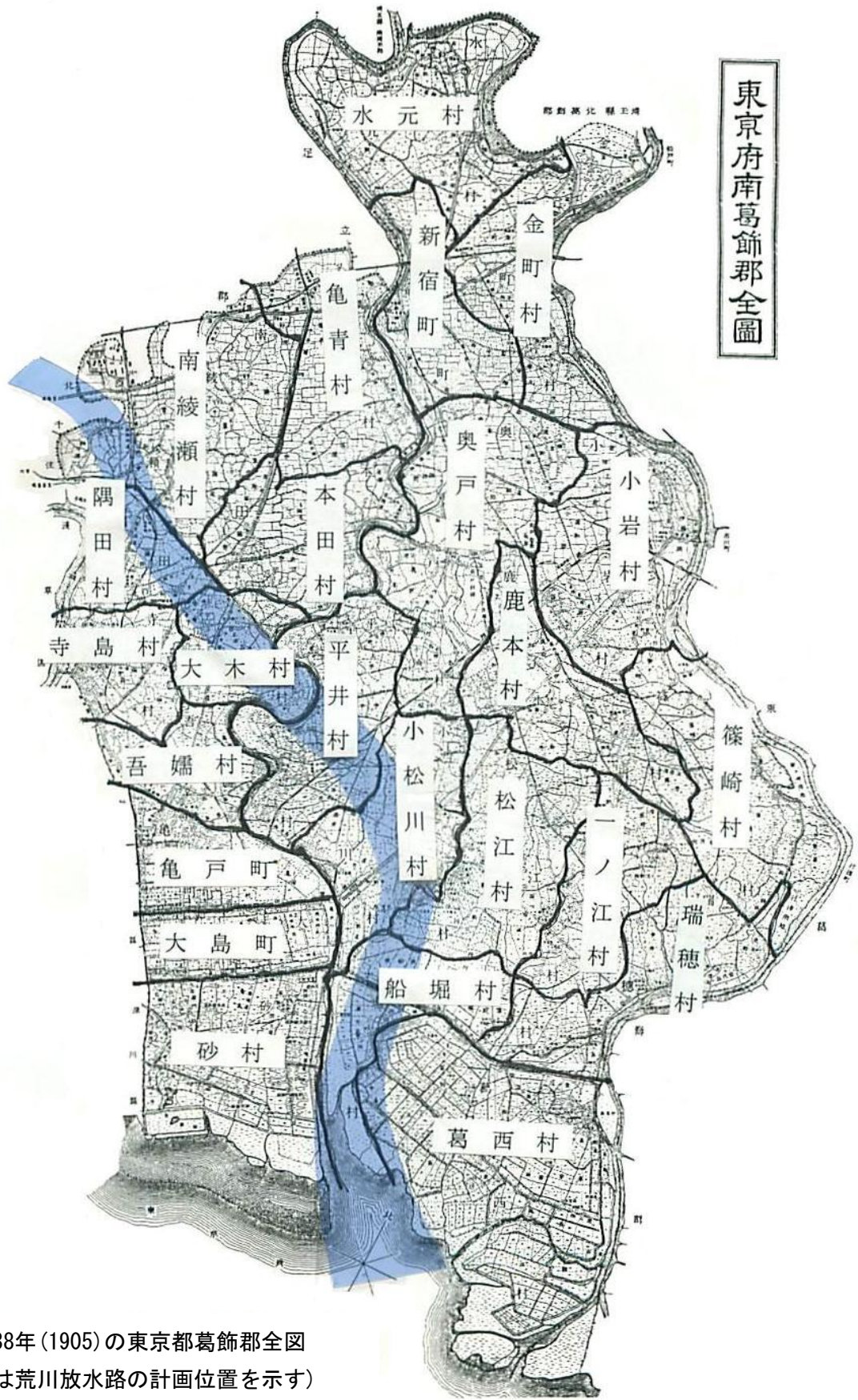
この両放水路の開削によって小松川橋(大正11年)、船堀橋(大正12年)、葛西橋(昭和3年)が架橋されています。

中川放水路の完成後も、しばしば洪水が発生していたことから、中川と綾瀬川あやせがわの改修計画がたてられ、中川には高砂たかさご(葛飾区)から江戸川(旧江戸川)の今井にいたる新たな放水路が設けられることになりました。現在の新中川がそれで、昭和16年(1941)から用地買収がはじまり着工をみましたが、戦争のために中断しています。

昭和22年(1947)のカスリーン台風は、利根川水系全域に大きな被害をもたらし、放水路の必要性があらためて注目され、新中川放水路の工事が再開しました。工事は難航しましたが、昭和38年(1963)に今井水門が完成し、終了しています。

昭和41年(1966)に、かつての中川を旧中川、中川放水路を「中川」、新放水路を「新中川」と改称しました。同時に荒川放水路も「荒川」と改称しました。

東京府南葛飾郡全圖



明治38年(1905)の東京都葛飾郡全図
(青帯は荒川放水路の計画位置を示す)

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)